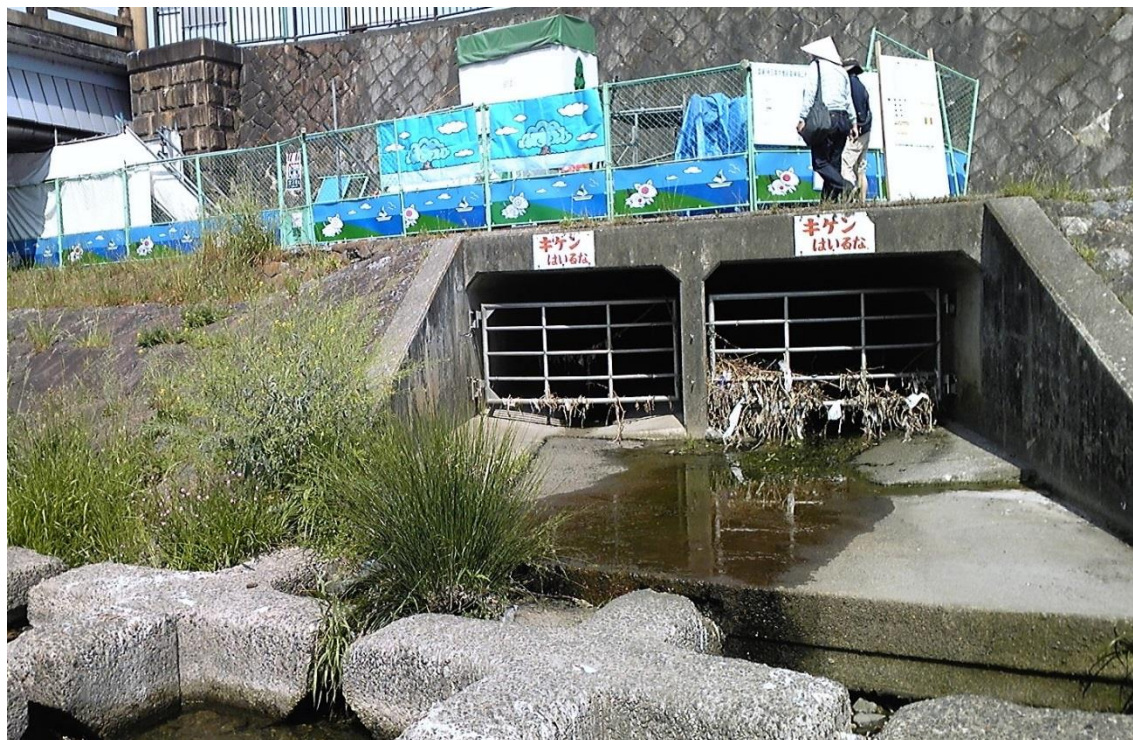


今月の1枚(2015年6月)

都市河川への雨天時排水吐口(下水道)



写真撮影、文とも 宮崎隆介 (JRMN 会員)

梅雨の候、合流式下水道から川への排水（放流）が増える時期になる。合流式で早くから下水道整備の進んだ日本の大都市共通の景色で、未処理下水が混じる弱点があり、現在は鋭意改善工事が行われている。合流式というシステムもコストと整備速度等との比較（一種のリスクトレードオフ）から採用されたけれど、下水道整備（水洗化）が進み、大都市ではほぼ100%の普及に達した現在、水質汚濁防止の観点から弱点が無視できなくなり、改善工事が予算化されている。受容されたリスクも時代や状況が変われば受け入れがたくなり、対応を迫られるものである。ちなみに下水道整備が後発の市町村ではほとんどが分流式（雨水管と污水管が別）で整備されており、理論的に未処理汚水が川などに出ることはない。